

Title	軍拡財政の分析 Ch. Tiffen, Cours aux armements et finance Publique, 1938.
Sub Title	
Author	永田, 清
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1938
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.32, No.10 (1938. 10) ,p.1457(145)- 1466(154)
JaLC DOI	10.14991/001.19381001-0145
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19381001-0145">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19381001-0145</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 軍 擴 財 政 の 分 析

Ch. Tiffen, *Course aux armements et finance publique*, 1938.

永 田 清

ベルトラン・ノガロオ教授編纂の「經濟叢書」の第六卷に、「軍擴と財政」が出版された。著者はシャルル・ティファン。この叢書は概して詳細な統計資料を用ひ、極めて具體的な例解に據るのを常とするが、このティファンの書も亦統計資料の豊富な點で注目すべき特徴をもつてゐる。

ティファンはこの書においてイギリス、フランス、ドイツの軍事費とこれを賄ふ財政とを分析し、各々の國に現はれた特質を指示してゐる。日本、アメリカ、イタリー、ソヴェトについては、最後の附録として軍事費の統計表のみをあげてゐる。従つて吾々がこの書を通じて識り得る範圍は、前掲の三國だけに限られるが、分析は精緻、然も論述は明快であるから、少くともこの三國の軍擴と財政を理解せんとする者には、好個の参考資料であらう。イギリス、フランス、ドイツは各々異つた軍備擴張の途を辿り、且つ軍事費の膨脹を賄ふ財政手段にも、各々その特徴が現はれてゐる。イギリスは出来るだけ正統派的な態度を以てのぞみ、フランスは稍々これより離れ、ドイツは古典派の理論を脱して積極的な方法を講じてゐる。さういふ點で、これ等の三國をとりあげたことは、問題を對照的

に理解して行く方法からしても、面白い結果を産み出してゐると思ふ。私はティファンの分析が以上の三國に限られてゐる點を遺憾に思ふが、また同時に現象の現はれ方と政策の特質とに各々異つた類型を見出すことが出来て、洵に興味深く感じた。

總じて現下の財政は、これを軍擴財政とよぶことが出来る。軍備の擴張によつて、財政は膨脹した。然らばこの膨脹財政と國民經濟との關係はどうなるか。これが現在の財政研究者にとつて最大の問題である。勿論財政研究者は軍擴財政の分析のみに終始してはならない。更に進んで、歴大な軍事費を如何に合理的に賄ふかを考へねばならぬ。併しかゝる財政政策を確立するためには、一應軍擴財政の總括的理解と、各國の現状とに通じて居らねばならぬ。斯様な意味で、私は英・佛・獨の現状を示すこの書の價值を充分に評價するものである。

會て赤字財政といふ言葉が世人の注目を惹いた。私も各國の赤字財政を示す参考資料としてダルトン(Hugh Dalton)その他の手になる Unbalanced Budgets, 1934. を本誌に紹介したことがある。言ふまでもなく、赤字財政は恐慌の影響たる収入の減退から起つた不均衡財政である。この不均衡財政はまづこれを如何にして均衡財政に引き戻すかといふ對策を考へさせたが、つゞいて財政の積極性——財政の經濟作出が自覺されて來ると、不均衡財政そのものゝ中に經濟を透導する力が見出された。一層具體的に言へば、財政と經濟との單一的な融合關係を通じて、不均衡財政に景氣政策的な意義が認められはじめたのである。さうしてこの財政による經濟の作出は先づ購買力賦與のための労働振興費の放出といふ形で切り出された。各國の趨勢からいふと、この方向は大體一九三三年までとみてよい。その後は軍事費の放出が財政支出の中心となつて、跛行的ながらも世界景氣の上昇に役立つて來た。この軍事費の膨脹は世界の準戰時體制に應じて現はれ、殊に最近におけるやうに各國が競争して軍擴に従事するやう

になると益々膨脹する傾向がある。このやうな状態においては、最早平時の財政といふことは殆ど考へられない。準戰時體制が進むに従つて、財政は則ち軍擴財政に外ならないのである。斯くて吾々の研究はこの軍擴財政に集注せざるを得ない。

ティファンの書は大約二つの目標をもつて書かれてゐる。——第一、軍擴によつて要求された經費は今日まで如何なる額に達したか。第二、國家は如何にしてこの財政を賄ふことが出来たか。この二つの目標を追ひつゝ、今日の如き歴大な軍擴財政が何處まで續き得るかといふ極めて興味ある問題に答へようとするのである。

軍擴財政を分析するためには、各國の狀態を常に比較してみなければならぬが、この比較が仲々困難である。といふのは、まづ一國の軍事費は前年度、前々年度の軍事費に關聯してゐる。例へば長年軍備を怠つてゐた場合、急に軍事費が膨脹することがある。この膨脹した年度だけをとつて、その國の優位を説くわけにはゆかない。従つて長い間の軍備狀態を考慮してかゝらねばならぬ。次に技術的にこの比較が出来るとしても、一國の軍備は一年度の經費に依存するのみでない。この經費が幾年間續いて支出される計畫になつてゐるか、換言すれば、一定年月の軍備計畫に織り込まれた一年度の軍事費が問題にされねばならぬ。更に軍事費は貨幣的表現であるから、貨幣價值、爲替相場、物價指數等を考慮にいれねばならぬ。最後に以上の困難が克服されるとしても、總括的な數字はまだ比較の基礎として役立つことが出来ない。何故なら、この數字は各國により本質的に異なる原因——それは同時に人件費及び物件費に影響するのであるが——に左右されるからである。ティファンは以上の諸原因が各國相互の財政比較を困難にすると言つてゐる(序文六一―八頁)。故に彼れは總括的な比較を避けて、英・佛・獨の個別的な研究に限定す

る。乃ち此等三國において、軍事費は如何に膨脹したか、各國はこれを如何にして賄つて来たかの分析が本書の内容である。

全般的にみて、本書の特徴と目すべきものに三つある。第一は、分析の方法が整然としてゐることである。彼れは本書を英・佛・獨の三編に分けてゐるが、一定の方法を以て全編を貫いてゐる。乃ち各國を通じ、まづその國の財政組織を略説し、軍擴並に軍事費膨脹の過程を論じ、最後にこれに照應する財政を説くといふ方法である。この一定の分析的方法により、英・佛・獨三國の軍擴財政が極めて系統的且つ具體的に説明されてゐる。第二は、軍備擴張と軍擴財政とを明らかにする前に、常に一國の財政組織を概説する點である。各國の軍擴財政はその國特有の財政組織の上に成立する。故に吾々は軍擴財政のみを表面的に觀察せずして、これをその國特有の財政組織に結びつけて理解しなければならぬ。ティファンの説明は稍々簡略に失する嫌ひはあるが、一應その目的を果してゐるやうに思ふ。第三は、利用される統計資料が甚だ注意深く用意されてゐる點である。元來統計資料は極めて嚴正であらねばならぬ筈だが、財政統計に關しては、近來その作成並に公示について完全を保し難いところがある。殊に軍事費になると、對内及び對外的關係から幾分隱蔽され勝ちである。積極的に隱蔽しようと思ふことも、軍事費そのもの、意味が漠然としてゐる。従つて、公示された表面的な數字だけを頼つてはならない。斯様な意味で、各國の公表する統計及び國際聯盟の軍事年鑑、世界經濟、財政(一九二八—三七年)等を利用する場合には、細心の注意が必要である。ティファンは軍事費の分析にあたり、單に陸・海・空軍費のみならず、各省費及び特別會計の中で軍事費と目されるべき經費をこれに加算してゐる。この加算額については、いろいろ異論もあると思ふが、今日の如く準戰時體制が強化されて、軍事費中心の財政が編成されるやうになると、一般費の中に軍事費的な性質をもつものが次第に

多くなつて来る。斯る場合には、軍事費それ自體の意味を十分に検討して出發しないと、事實に即した結論を産み出すことが出来ない。ティファンの數字はこの用意が充分に準備されてゐるのである。

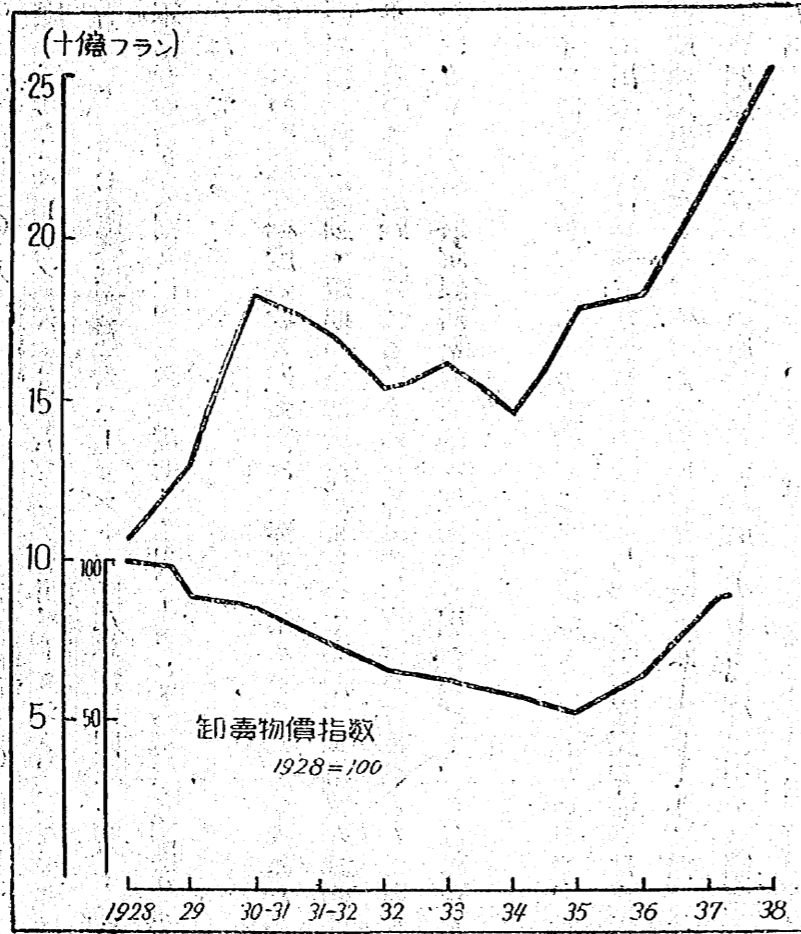
### 三

第一編はイギリス軍擴財政の分析である。彼れはまづ一九二八年から三六年に至る軍事費を陸軍關係、海軍關係、空軍關係に分けて詳細に分析し、更に之に内治關係の消極的軍事費をつけ加へてゐる。興味ある數字であるが、一々紹介する餘裕はないから、この軍擴の足どりを示す圖表だけを左に示しておかう。

更にこの軍事費は總財政支出に對して幾許の百分率となるか。一九二八年から三五年までを總平均すると、一三・五パーセント、三五—六年度は一七パーセント、三六—七年度は二二パーセント、三七—八年度は二八パーセントとなつてゐる。三五年以後急速に軍事費が膨脹したのは、新たな軍擴政策が確立されたからである。由來英國は膨脹財政を賄ふために常に増稅政策を織り交せて来たが、新たな軍擴によつて、この傳來の財政政策は遂に轉換期に面することになつた。殊に三七年二月十一日に五箇年間十五億磅の大軍備計畫が發表されると、この龐大な軍事費を賄ふ方法としては、從來の所得稅、超過稅の増徴による増稅政策に據ることが出来ず、その中四億磅は之を公債收入に仰ぐこととなつた。その結果は公債の累積となる。そこで英國は全體としての信用統制に乗り出さざるを得ない。謂はゞ軍擴財政の結果として信用統制が強化されるといふのである。ティファンは結論として、英國の財政はこの負擔に充分堪へ得るであらうが、若し最後の白書によつて決定された限度を越ゆれば、如何なる經濟政策にも拘らず、破綻に瀕するであらうとみてゐる。

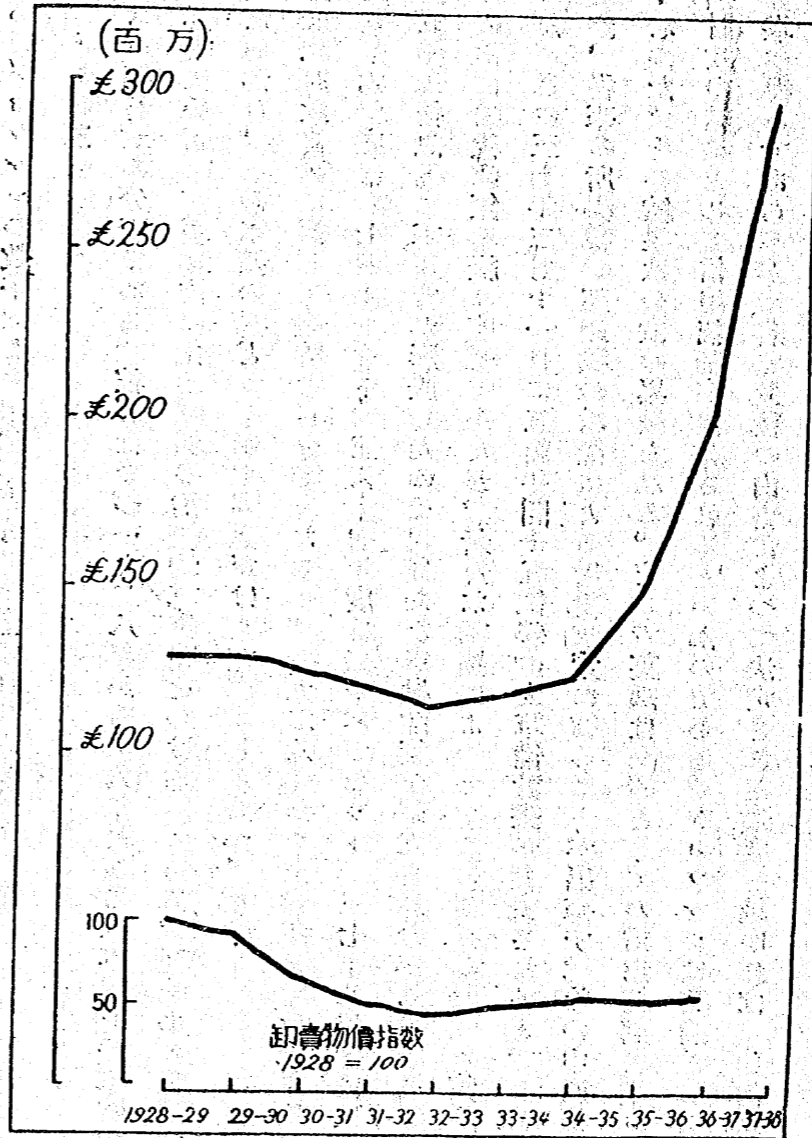
第二編はフランス軍擴財政の分析にあてられてゐる。フランスの軍事費で注意を惹く點は、内政費中に軍事費と

佛蘭西に於ける軍事費の膨脹



目さるべき経費が割合に多いこと、及び一九三一—二年度以降の特別會計軍事費の計上である。試みに三六年度の軍事費を分析してみると、一般軍事費七十億八千六百萬法、内政費中軍事費と目さるべきもの二十六億九千二百萬法、特別會計軍事費五十四億三千六百萬法となつてゐる。そしてこの膨脹経費が主として公債収入に依存する點は此國の傳統とみてよい。軍擴財政の経路は上の圖表の示す通りである。

英國に於ける軍事費の膨脹

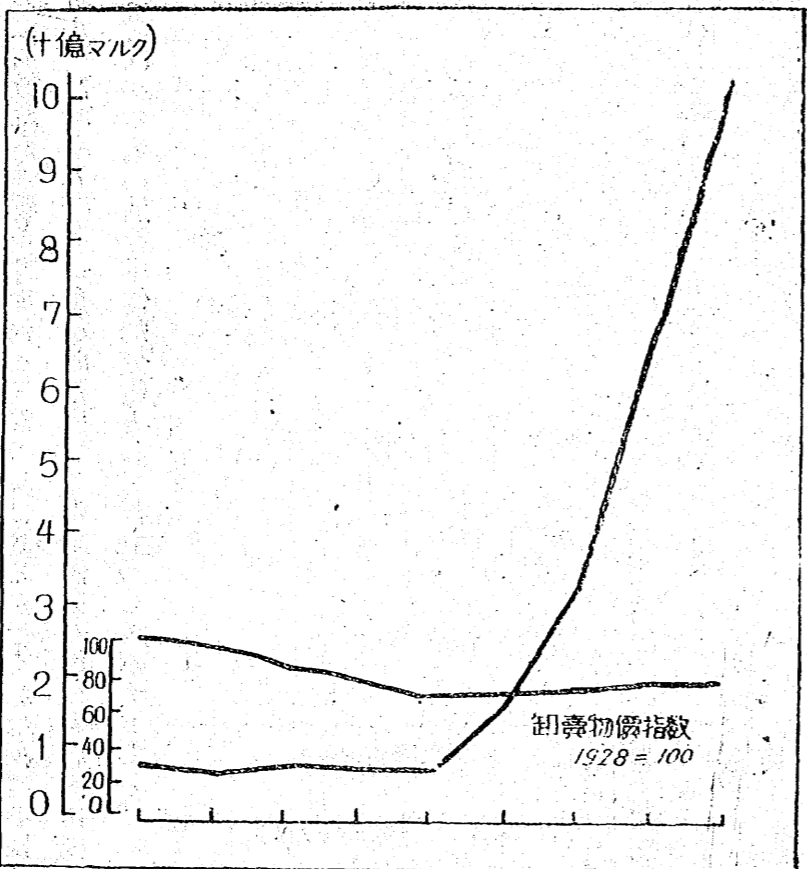


この膨脹軍事費が總經費中において占める割合は、二八年度には二四パーセント、二九年度には二七・二パーセント、三〇―三一年度は三〇・八パーセント、三二―三三年度は三〇・四パーセント、三三年度は二七・九パーセント、三三―三四年度は二九・二パーセント、三四年度は二八・四パーセント、三五年度は三三・四パーセント、三六年度は三六・九パーセント、三七年度は四五・六パーセント、三八年度は四三・二パーセントである。尚ほ三六年度以後の特別會計中軍事費の占める割合は、三六年度七二・六パーセント、三七年度五九・三パーセント、三八年度七八・五パーセントとなつてゐる。

恐慌後フランスの財政は極度の収入減に悩み、赤字も常に巨額に上つてゐたから、軍事費の膨脹は一層財政を壓迫し、公債の累積、特に流動・短期の公債増發が目立つて來た。軍事費の減額は今日の國際情勢からみて容易でない。その結果財政の破綻が懸念される。そのためにティファンは結論として財政經濟の再調整を要求してゐる。恰もドイツにおけるやうに、財政經濟を古典的な框内から引きあげて、これに新たな體制を與へることが必要だといふのである。

第三編はドイツ財政の分析である。最近のドイツは財政を公示しないので、數字も正確を期し難いが、著者は充分の用意を以て出来るだけ具體的な例解をあげてゐる。軍事費膨脹の趨勢は左表の如くである。

ドイツは財政の逼迫甚だしく、そのため古典的な財政々策を逸早く棄てた。そして租稅證券、勞働振興策、事前金融等の新しい制度を設けて、この財政難局に對處してゐる。殊にナチス國家になつて以來、前表の示す通り歴大な軍事費を支出することになつたから、財政々策は一段と強化された、軍擴財政をめぐる、財政經濟の全面的統制が、いよゝゝ強化されることになつたのである。この統制はある程度まで成功してゐるが、その根本的な理由は、テ



軍擴財政の分析

ィファンによると、英・佛の如きデモクラシー國家と違つて、全體主義の政治構造をとつてゐるからである。正統派の理解から言へば、ドイツの財政は當然破綻すべき筈であるが、全體主義國家を基礎として強烈な統制を行ひ得るが故に、軍擴に伴ふ積極的な財政々策が講ぜられるといふのである。

ティファンは全編の結論として、軍擴が進むに従ひ、財政經濟の新しい體制が必要になつて來る。政治構造は次第に全體的・獨裁的な形に變つて來る。デモクラシーの國家においても、財政經濟の變革から來る犠牲は已むを得ない事柄として容易に忍ばれることにならうと述べてゐる。

然らば財政經濟の變革は如何なる形で現はれるか。それは勿論各國各様の事情に應じて種々の組織をとるであらう。斯くて吾々にとつて切實な問題は、この新體制の態様を各國に應じ具體的に把握することである。ティファンのこの書は斯る途へ進む準備的分析として役立つことが大である。

(一九三八・九・二五稿)

# 前號 (第三十二卷) 目次

- 外交文書を通じて見たる幕末の長崎  
野村兼太郎
- 都市生活論  
奥井復太郎
- シュメル時代の都市構成  
井上 芳郎
- Maxwell H. H. Macartney and Paul Cremona; Italy's Foreign and Colonial Policy (1914-1937), 1938  
山本 登
- 最近日佛貿易關係資料  
下田 博
- 「日本經濟發展の對佛影響」(Les conséquences du développement économique du Japon pour l'Empire Français)

● 一冊定價金五拾錢 郵税金壹錢五厘  
● 半年分金貳圓九拾錢 郵 稅 共  
● 一年分金五圓四拾錢

● 編輯及び事務に關する一切の用件は發行所宛  
● 營業に關する用件は發賣元宛  
● 原稿締切期日は發行の前月十日限

昭和十三年九月卅日印刷納本  
昭和十三年十月一日發行 每月一回一日發行

三田學會雜誌  
禁 轉 載  
編輯者 江 田 範 保  
發行所 東京市芝區三田二丁目二番地慶應義塾内  
印刷者 金子 鐵 五 郎  
印刷所 東京市赤坂區新町五丁目四十二番地  
金 子 活 版 所

發賣元 東京市芝區三田二丁目一番地  
丸善株式會社三田出張所

● 尙ほ本誌は全國各市雜誌店にて販賣す  
電話三田(45) 一九二六番  
振替口座東京 一九二七番  
一八五二番

發行所 東京芝三田 慶應義塾内 理財學會

振替口座 慶應義塾 芝區三田二ノ二 東京一八二〇四番